



教育学部校舎（平成17年度弘前大学総合文化祭）

# あすなろ

## 第27号

発行 弘前大学教育学部同窓会  
〒036-8560 弘前市大字文京町1  
TEL. 0172 (36) 2111 代表  
編集事務局  
弘前市豊原1丁目1の3  
弘前愛成園立花園保育園内  
TEL. 0172 (33) 6250



### 教育学部の歴史を考える

教育学部同窓会会長 木村清之助

地球の温暖化による地球の危機が叫ばれている昨今ですが、今年の冬もまた全国的な異常気象による大雪で、挨拶が雪に関する苦情から始まる毎日です。会員の皆様におかれましては如何お過ごしでしょうか。

さて、今年は私たちの教育学部にとって大きな節目となる年を迎えることになりました。それは学部の前身である「青森県師範学校」の創設（明治九年）から百三十周年という記念すべき年にあたるか

らです。日本の近代学校制度に関する最初の法令が明治五年に公布されてから四年後に、学校制度を担う専門的な教員の養成が開始されたことになりました。いま改めて師範学校創設から現在に至るまでの変遷をたどってみると、国の近代化、そして繁栄の根幹をなす人材育成のため国や県として、その時代に即応して非常に大きな力を注いできたことが思い知らされます。師範学校創設後、明治四十三年に青森県女子師範学校が創設され、

その後昭和に入ってから県立実業補習学校教員養成所、県立青年学校教員臨時養成所、官立青森青年師範学校などができました。そして戦後は教師不足もあって、小学校教員臨時養成科、青森県立僻地学校教員養成所などを創設し、旧制の中等学校卒業資格者に短期で教員資格を付与する制度を作った子どもへの教育に対応してきました。

このような師範学校を中心とした教員養成の対応により、戦後の生活が困窮した混乱期でも学校が休校や廃校もなく、連綿として現在に至っていることの意義を再確認し、先輩方の労苦に感謝すると共に心を新たにしたいものです。



### 教育学部は、新たな一歩を踏み出します

教育学部長 佐藤 三三三

昨冬の弘前は、一月に入ってから観測史上最高といわれる大雪に見舞われました。今冬は、十二月初めに降った雪が根雪になってしまい、十二月としては近年まれに見る大雪といわれています。全国的にも大雪で、自然界もまた人間界同様に変化の激しい様相を呈しています。座して眺めていると変化の激しさに飲まれ、滅入ってしまいます。ですから、こういう時代にあつては、自ら変化を作り出して行くのが得策ではないかと思つて、学部をあげて頑張っているところです。

「温故知新」。ふるい物事を究めて、新しい知識や見解を得ること、といった意味だそうですが、弘前大学の前身は、大雑把に言つて、明治九年創立の青森県師範学校、大正九年創立の弘前高等学校そして昭和十九年創立の青森医学専門学校と三校です。この中で、教育学部の前身である青森県師範学校の歴史が群を抜いて古いことは一目瞭然です。今年、平成十八年は、教育学部にとって、青森県師範学校の創立から数えて、丁度、百三十年目にあたります。今までにも何度も節目の時がありました。

特段意識することもありませんでした。しかし、今年、「教育学部創立百三十周年」のお祝いをして、この巨大で堅固な歴史の礎を踏みしめたいと思います。

全国に二つと無い独創的な「教員養成学研究開発センター」は、二人の専任教員の下で、着実に成果を上げております。全国の研究者から論文を公募して掲載する研究機関誌「教員養成学研究」も刊行しました。また「授業の達人に学ぶ」「臨床準備科目―子どもとの初めての関わり合い」「教員発展科目―教師の立場で子どもと関わる」等の新科目も試行しています。附属学校園は、「附属」の特徴を生かした新たな教育に取り組んでいます。おわりに、皆様のご健勝をお祈りいたします。



### 教育学部

## 百三十周年記念事業

教育学部百三十周年記念事業準備委員会  
委員長・副学部長 星野 英興

平成十八年九月三十日(土)に、国立大学法人弘前大学教育学部は、「百三十周年記念式典・祝賀会」を行います。

昭和二十四年五月三十一日に設置された国立弘前大学には、教育学部と野辺地分校が置かれました。

それ以前には、青森県師範学校(明治九年九月創設)及び青森県女子師範学校(明治四十三年三月創設)を前身とする青森師範学校(昭和二十六年三月廃止)及び、青森県立実業補習学校教員養成所(昭和六年二月創設)を前身とする青森青年師範学校(昭和二十六年三月廃止)がありました。

この間、みちのくホールで、教職員・学生並びに附属校園生徒・園児らが参加して、記念コンサートが催されます。また、記念会館を会場に、「教育学部百三十年を振り返って―そして未来へ―」と題する記念展示を行います。

つきましては、記念展示に関する資料(写真、印刷物、記念品等)の提供・貸与等のご協力をお願い致します。百三十周年記念事業事務局(〒036-1856) 弘前市文京町一 弘前大学教育学部総務グループ、総務担当。電話…〇一七二―三九―三三(四)で、お申し出をお待ち致しております。

この百三十周年記念事業が一つの契機となつて、同窓生、教職員、院生・学生、附属校園生徒・園児という幅広い世代にわたる連携ができ、次なる弘前大学教育学部の発展への礎がさらに強固となることを祈念します。

青森師範学校同窓会、青森県女子師範学校同窓会、弘前大学教育学部野辺地分校同窓会及び弘前大学教育学部同窓会のご協力を得て、弘前大学教育学部は平成十八年九月三十日(土)に、記念事業を行います。もとより、この事業は同窓

生諸賢のご協力なくしては行い得ません。各種記念行事へのご参加をお待ちしております。

事業の概略は以下の通りです。

○記念式典(午後一時〜二時)  
於弘前大学創立五十周年記念会館  
みちのくホール

○記念祝賀会(午後四時〜六時)  
於大学会館三階ホール

この間、みちのくホールで、教職員・学生並びに附属校園生徒・園児らが参加して、記念コンサートが催されます。また、記念会館を会場に、「教育学部百三十年を振り返って―そして未来へ―」と題する記念展示を行います。

つきましては、記念展示に関する資料(写真、印刷物、記念品等)の提供・貸与等のご協力をお願い致します。百三十周年記念事業事務局(〒036-1856) 弘前市文京町一 弘前大学教育学部総務グループ、総務担当。電話…〇一七二―三九―三三(四)で、お申し出をお待ち致しております。

この百三十周年記念事業が一つの契機となつて、同窓生、教職員、院生・学生、附属校園生徒・園児という幅広い世代にわたる連携ができ、次なる弘前大学教育学部の発展への礎がさらに強固となることを祈念します。

弘前大学全体の教員養成に責任を持つようになったことにともない、教育学研究科への期待もより大きくなりました。これからの三年間で、私たちはいろいろな面の改善・改革を行うことになるでしょう。

学校教育講座(心理学)の努力により、臨床心理学分野の認定にむけた認定の申請を一月十二日に済ませることができました。その申請の結果が三月末に発表されますが、認定されれば、正式には平成十九年度から弘前大学で臨床心理士資格を取得するための勉強ができるようになります。これは、スクール・カウンセラーが不足する青森県にとって大変喜ばしいことであるとともに、教育学研究科として、大きな地域貢献になると考えられます。

教育学研究科の全学における役割は、大きく三つに分けられます。第一に、教育学部から上がってくる学生(いわゆるストレート・マスター)に対し、二年間で無事に修士号(マスター)を習得するための、より充実した授業が行わなければならない。第二に、他学部からきた教職課程を深く学んでいない大学院生にむけた、教員養成教育もしっかりやらなければならない。第三に、青森県の現職教員の皆さんのために、現場で役



### 教育学研究科

## 改革へ向かって

教育学研究科 運営委員長 J.N.Westerhoven

平成十八年度から、教育学部が弘前大学全体の教員養成に責任を持つようになったことにともない、教育学研究科への期待もより大きくなりました。これからの三年間で、私たちはいろいろな面の改善・改革を行うことになるでしょう。

学校教育講座(心理学)の努力により、臨床心理学分野の認定にむけた認定の申請を一月十二日に済ませることができました。その申請の結果が三月末に発表されますが、認定されれば、正式には平成十九年度から弘前大学で臨床心理士資格を取得するための勉強ができるようになります。これは、スクール・カウンセラーが不足する青森県にとって大変喜ばしいことであるとともに、教育学研究科として、大きな地域貢献になると考えられます。

教育学研究科の全学における役割は、大きく三つに分けられます。第一に、教育学部から上がってくる学生(いわゆるストレート・マスター)に対し、二年間で無事に修士号(マスター)を習得するための、より充実した授業が行わなければならない。第二に、他学部からきた教職課程を深く学んでいない大学院生にむけた、教員養成教育もしっかりやらなければならない。第三に、青森県の現職教員の皆さんのために、現場で役

まず、今年度の実績について報告します。

三年次の附属ユニバーサル・スクールにおける教育実習履修者数は、二百二十三名(小学校百名、中学校九十七名、養護学校十六名、幼稚園十名)、四年次の協力校における教育実習履修者数は、二百六



### 教育実習の現状と今後の計画

実習委員長 伊藤 成治

に立つ研究の機会を与えなければなりません。

これまで、教育学部を卒業した大学院生が多かったため、教育学研究科のカリキュラムでは、必ずしも教員養成が十分に意識されてきたわけではありません。院生にはある程度、教職に対する意識が備わっていたからです。しかし、これからのカリキュラムでは、意識をもっと明確に教員養成に置かなければ、教育学研究科に在籍するメリットが見えにくくなる危険があります。たとえば、大学院生のための教育実習の導入を検討する必要がありますし、それを実践するための授業科目の導入も必要になるかも知れません。

また、青森県の現職教員の入学数が最近非常に低下している理由の一つは、弘前市が三八・下北地

域からあまりにも離れていることにあります。八戸市から新幹線に乗れば、一時間程度で盛岡市に着くので、わざわざ遠くの弘前大学に一年間通学する意欲がなくなるのも無理ではありません。それから大学院二次にも、修士論文をまとめるためにしばしば弘前まで通わなければなりません。そのような負担を少しでも軽くするため、サテライト授業や遠隔授業などあらゆる手段を活用しなければならぬと考えています。

このごろ、「教職大学院」という言葉をよく耳にします。現在、弘前大学にも、教育学研究科にも組織的にすぐさま教職大学院を創る余裕はありませんが、カリキュラムの改善・改革の実践ができれば、結果としてより良い教員養成教育が行えるのではないのでしょうか。私たちはそれをめざしてまいります。そのような土台をしっかりと築くことができたなら、教職大学院を立ち上げることも、それほど難しくありません。

名(小学校百一名、中学校九十五名、幼稚園十名)でした。

この他、養護教諭養成課程四年次学生二十七名の養護実習が小学校の協力校と附属小学校で行われ、さらに、一年次の教職入門の一部として行われる観察実習では弘前市立文京小学校、第三大成小学校、第

まず、今年度の実績について報告します。

三年次の附属ユニバーサル・スクールにおける教育実習履修者数は、二百二十三名(小学校百名、中学校九十七名、養護学校十六名、幼稚園十名)、四年次の協力校における教育実習履修者数は、二百六



三中学校にご協力いただきました。この場をお借りしまして御礼申し上げます。

次に、教育実習の今後の計画についてお話しします。

教育学部は、「児童生徒に働きかけ、反応を読みとり、働きかけ返す力を持った教育プロフェッショナル」を育成するために策定した新カリキュラムの中核をなす科目を平成十六年度入学生より実施し始めました。特に、教育実習を含む教育実践体験関連科目は、整備充実されました。

ここでは、来年度から始まる三年次の教育実習に絞って紹介します。

三年次の附属ユニバーサル・スクールにおける教育実習については、従来の二週間連続の集中型実習に加え、年間を通じた長期型実習を実施します。集中型実習が、短期間で集中的に教育活動を体験することで主に学習指導に関する内容の理解・実践を中心に行うことに対して、長期型実習は、継続的に学校の実態や児童の変容を知るための観察及び集中型実習をもとに設定した課題を追究するための授業づくりを通して、教師としての資質・能力をよりいっそう高める事に主眼を置きます。

また、これら二種類の実習は、「児童生徒の成長と発達についての理解を深めること」「自らの知識やスキルの不十分さに気付くこと」「より高い専門性へのニーズを引き出すこと」を目的としています。これを基礎として、教職への熱意が高い四年次の学生には、公立

校での教育実習を含む教育実践体験を準備しています。

毎年教育実習におきましては、同窓会の皆様方に温かいご指導を



### 特別支援センターの設置と活動

特別支援教育センター長 安藤 房治

頂き深く感謝しております。今後とも後輩たちへのご支援をどうかよろしくお願いいたします。

近年、小・中学校における学習障害(LD)・注意欠陥多動性障害(AHDH)など軽度発達障害のある子どもたちの教育的対応が大きな課題となってきました。平成十四年に公表された文部科学省の調査によれば、該当する子どもたちは学齢児の六・三%で、一クラス一、二人はいるということでした。

従来、障害児教育は「特殊教育」(学校教育法)というところで盲・聾・養護学校と小・中学校に設置される特殊学級等において実施されてきましたが、軽度発達障害のある子どもたちの教育が重要な課題となる中で、文部科学省は従来の「特殊教育」の対象に小・中学校の軽度発達障害のある子どもを加えた「特別支援教育」を実施しようとしています。

従来の「特殊教育」の対象は学齢児の1%前後であったのですが「特別支援教育」の対象は七、八%になります。このように軽度発達障害のある子どもへの教育的対応が課題となる中で、障害児教育研究室では、教育相談室を設置し(平成十一年)、附属養護学校とも連携しながら教育相談を継続、充実させてきました。

相談室に来談するのは主として小・中学校の軽度発達障害のある子どもたちです。高校生の来談も少なくありません。相談件数は年

心理臨床相談室は、臨床心理士養成の「指定大学院」の実習施設、兼、社会貢献施設として、平成十六年一月に発足しました。「指定大学院」については、認可基準が年々厳しくなる中、数度に亘る折衝を経て、このたび申請を済ませたところと



### 心理臨床相談室の過去・現在・未来

大学院教育学研究科 心理臨床相談室長 豊嶋 秋彦

も多く、相談に応じられるまで二、三ヶ月も要する現状にあります。このようないわば研究室任意の教育相談事業を教育学部の事業として位置づけを与えられたのが平成十六年十月のことです(「特別支援教育相談室」)。さらに、平成十七年六月、この特別支援教育相談室が、教育学部附属の「特別支援教育センター」として大学から認可されました。

「特別支援教育センター」は、教育学部の障害児教育研究室と附属養護学校が運営主体となっています。「特別支援教育センター」は、「特別支援教育相談室」の相談機能に研修機能を付加し、活動を進めています。

具体的な事業の一つは、平成十七年八月二、五日に行われた「実践で学ぶ特別支援教育セミナー」です。これには、親子六組と小・中・高およびの養護学校教師十一名の参加を得、実践的研修の機会を提供することができました。

さらに、十二月には公開講座「特別支援教育のための心理アセスメント研修会」を開催し、約六十名が研修を行いました。特別支援教育センターの事業にご理解、ご支援いただけますようよろしくお願い致します。

理臨床の研鑽を深めながら、相談室実習に携わっています。大学院生が実施する相談は、担当教員がその都度指導するだけではなく、五名の教員全員が出席する事例検討会(隔週一回、一回四時間)で、より深い事例理解とよりよい支援の在り方を検討します。もちろん教員は全員が臨床心理士であるだけでなく、それぞれが、学生相談・産業力ウンゼリング・非行臨床・病院臨床・福祉臨床に専任として携わった経歴を持っています。

今後、北東北で絶対数の少ない力量あるスクールカウンセラーを着実に送り出しつつ、これまでも実施してきた研修会をより深い内容で展開したいと考えています。

第一は、修了生の「品質保証」のための専門的研修会、第二は、教師や適応指導教室指導員を対象とした研修会です。

教員も大学院生も、講義や演習ひいては学外実習の時間を確保せねばなりませんので、相談室来談数を増やすことはなかなか容易ではありませんが、夜間や土曜日対応等でも切り切る所存です。もし、身近に希望者がおられましたら紹介して下さい。ちなみに、相談申し込みは電話(〇一七二一三九一三四八七)で受け付け、そのうち、担当者とは談日時等を個別的に決めていきます。

平成16年度決算

(16.4.1~17.3.31)

Table with 4 columns: 収入の部, 16年度予算, 16年度決算, 備考. Rows include 会費, 繰越金, 雑収入, 計.

Table with 4 columns: 支出の部, 16年度予算, 16年度決算, 備考. Rows include 総会費, 評議会費, 支部活動費, 会費徴収費, 通信費, 就職対策費, 臨床心理士養成経費, 再編・統合関連経費, 特別対策費, 教育開発活性化経費, 会報, 新会員名簿印刷費, 全学同窓会費, 基金, 事務局費, 事務局費, 雑費, 計.

2,523,755 - 2,474,250 = 49,505円 (次年度へ繰り越し)

平成17年度予算

(17.4.1~18.3.31)

Table with 4 columns: 収入の部, 16年度決算, 17年度予算, 備考. Rows include 会費, 繰越金, 雑収入, 計.

Table with 4 columns: 支出の部, 16年度決算, 17年度予算, 備考. Rows include 総会費, 評議会費, 支部活動費, 会費徴収費, 通信費, 就職対策費, 教大協研究会経費, 再編・統合関連経費, 特別対策費, 教育開発活性化経費, 臨床心理士養成経費, 会報, 新会員名簿印刷費, 全学同窓会費, 基金, 事務局費, 事務局費, 雑費, 計.

庶務報告

- 17. 4. 11 同窓会加入の案内
17. 5. 13 同窓会総会の案内
17. 6. 11 同窓会総会
17. 6. 集団模擬面接試験
17. 7. 同窓会費納入の依頼
17. 11. 2 学部と同窓会の懇談会
18. 3. 22 弘前大学卒業式・祝賀会

平成十七年度弘前大学教育学部同窓会定時総会は、平成十七年六月十一日(土)、午後二時よりパークホテルにおいて行われた。当日の参加者は二十五名と少なかつたが、議長に笹森義男(弘前市・中郡支部長)を選出した後活発な話し合いが行われた。話し合いは、教員採用試験の援助活動と同窓会費の納入者減少の件を中心にされた。そこでは、年々会費の納入率の減少は続いてはいるが、積立金を取り崩しても大学への援助は続けていくことが確認された。

平成十七年度 弘前大学教育学部同窓会 定時総会報告

事業計画

特別会計基金(定期預金関係)

- 1. 総会 青森銀行 10,021,579+ 4,825=10,026,404円(利子)
2. 教員採用試験の援助 10,026,404-1,500,000= 8,526,404円(名簿作成へ)
3. 同窓会費納入依頼
4. 会報「あすなろ27号」発行 みちのく銀行
5. 弘前大学卒業式・祝賀会 9,109,419+ 2,202= 9,111,621円(利子)
6. その他 9,111,621- 500,000= 8,611,621円(H17予算へ)

平成十七年度役員

- 名譽会長 佐藤 三三(学部長)
顧問 齋藤 善三(弘前市)
副会長 木村清之助(弘前市)
会長 笹森 義男(弘前市)
支部長 弘前・中郡支部 笹森 義男(弘前市)
会計・監査 工藤 光男(弘前市)
1. 支部長 弘前・中郡支部 笹森 義男(弘前市)
2. 黒石・南郡支部 横山 岩雄(猿賀小)
3. 五所川原・北郡支部 齊藤 光正(梅沢小)
4. 西郡支部 屋敷 政勝(永田小)
5. 青森・東郡支部 奈良 永年(青森市)
6. 八戸・三戸郡支部 澤田 明久(白銀南小)
7. 三沢・十和田・上北支部 廣野 雅実(上北中)
8. 弘前大学教育学部支部 鎌田耕太郎(教育学部)
9. その他の地区支部
10. 評議員 小野 禎亮(弘前市)
赤石 和夫(弘前市)
高岡 弘實(弘前市)
鈴木 哲夫(弘前市)
阿部 千代治(弘前市)
松田 千代治(弘前市)
1. 評議員 小野 禎亮(弘前市)
赤石 和夫(弘前市)
高岡 弘實(弘前市)
鈴木 哲夫(弘前市)
阿部 千代治(弘前市)
松田 千代治(弘前市)
2. 黒石・南郡支部 秋田 豊(弘前市)
奥崎 三進(弘前市)
栗林 幸一(岩木町)
栗林 欣三(平賀町)
福林 兼義(中倉館村)
中畑 利文(弘前市)
小野 信博(北陽小)
立花 茂樹(黒石教委)
3. 五所川原・北郡支部 大崎 啓子(永元中央小)
4. 西郡支部 加藤 修司(子阿弥小)
小田川 修三(喜良市小)
金澤 和生(一野坪小)
阿彦 正弘(五所川原南小)
5. 青森・東郡支部 三浦 則孝(つがる市)
木村 健一(西海小)
平川 知枝子(柏小)
坂本 寛(館岡小)
6. 八戸・三戸郡支部 成田 誠二(八戸市)
小松 史明(八戸市)
関根 建夫(三戸郡)
高橋 信夫(八戸市)
松本 正栄(五戸小)
千葉 力久(三戸中)
小松 吉春(白鷗小)
築瀬 真知雄(湊小)
7. 三沢・十和田・上北支部 梅田 真規(六戸町)
山田 繁雄(十和田市)
岩村 義一(岡三沢小)
永瀬 俊明(十和田東中)
馬場 せつ子(古間木小)
川村 正正(横ノ下小)
福沢 周昭(横濱中)
樋口 博昭(林代小)
8. 弘前大学教育学部支部 藤田 淳一(関根中)
北土 光男(大畑中)
奈良 魏(大平中)
工藤 勝(城ヶ沢小)
土岐 勝(第二田小)
竹浪 貞吉(むつ市)
石川 貞吉(むつ市)
9. 大学教育学部支部 村山 正明(教育学部)
平山 恭一(教育学部)
野呂 徳治(附属実践ゼミナール)
野呂 誠一(附属中)
奈良 央美(教育学部)
小林 正栄(花園保育園)
10. 常任委員 相馬 正栄(花園保育園)